

Beyond the Border,
Create the Future.

9
since 2011 Years

ANNUAL REPORT 2019-2020

 CROSS FIELDS





01

留職プログラム

Corporate Volunteering Program



02

社会課題体感 フィールドスタディ

Social Issue Understanding
Field Study



03

社会課題解決 ワークショップ

Social Business Creating
Workshop

社会に「分断」ではなく「つながり」を。
いまこそ、枠を超えて橋をかけ続ける。

いま世界で起きている変化を乗り越えるために必要なのは、
人々がつながり、支え合うこと。
そう信じて、創業10年目のクロスフィールズは挑戦を続け、
社会の未来を切り拓きます。



04

ソーシャルセクター 支援

Social Sector Empowerment



05

新規事業

New Initiative



06

アドボカシー

Advocacy



OUR VISION 目指す世界

- すべての人が「働くこと」を通じて、想い・情熱を実現することのできる世界
- 企業・行政・NPOがパートナーとなり、次々と社会の課題を解決している世界

OUR MISSION 果たすべき使命

枠を超えて橋をかけ 挑戦に伴走し
社会の未来を切り拓く

MESSAGE 代表からのメッセージ

「変化の時代だからこそ、未来を切り拓く挑戦を続ける覚悟」

2019年度は創業以来の大きな変化の年でした。留職とワールドスタディという2つの基幹事業が進化を続けるとともに、プログラム参加者が「社会課題の現場での原体験」をもとに所属企業のリソースを活用した社会課題解決に踏み出す事例も数多く生まれました。

一方、2020年に拡大した新型コロナウイルスの影響で、クロスフィールズの事業は全面的な見直しを迫られました。目下、様々なステイクホルダーの皆さんと職員で力を合わせて新

たな取り組みにも着手し、たしかな手応えを掴み始めています。いまこそ橋をかけることに価値があると信じ、この危機を社会が乗り越えていくために挑戦を続けていきます。

どうぞ引き続き、応援よろしくお願い致します。

共同創業者・代表理事
小沼大地



PARTNERSHIP 過去9年間の協働実績

パートナーNGO／社会的企業 **160**団体 **12**カ国



パートナー企業 **55**社 プログラム参加者数 **1,327**人



01

留職プログラム

Corporate Volunteering Program

参加人数

211人

企業数

42社

団体数

120団体

派遣国

11ヶ国

※2011～2019年度の累計実績

社会課題の現場に飛び込んで課題解決に挑む 次世代リーダー向けプログラム

新興国のNPOや社会的企業が取り組む課題解決の加速と、企業のリーダー育成を同時に目指す留職プログラム。創業から拡大し続けているのは、留職者の貢献が現地に認められてきたからであり、また帰国後の所属企業においてリーダーとしての成長が認められているからです。最近では、留職中の経験を活かして新規事業を立ち上げる事例も生まれています。

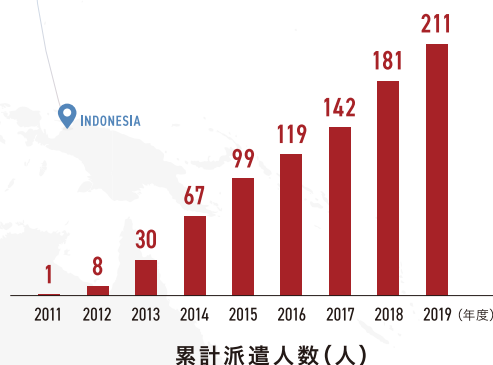
未来を切り拓く
リーダーの育成

派遣元企業

企業の力を活用した
課題解決の加速

新興国のNPO/
社会的企業

2～12ヶ月の現地勤務



— 現地貢献と留職者の成長を両立するこだわり

プログラムの成果を決める重要な要素の一つが、留職者と派遣先のマッチングです。本プログラムでは留職者一人ひとりに対して複数回の面談を実施し、スキルや専門性と、プログラムへの参加目的を深堀りします。また、派遣先である新興国のNPOや社会的企業の選定にもこだわっており、担当プロジェクトマネージャーが現地を訪問し、各団体のニーズや業務環境を確かめたうえで最終決定しています。こうして可能になる最適なマッチングこそが、現地貢献と留職者のリーダーシップ育成を両立させる鍵だと私たちは考えています。



1. 2019年度は56団体とパートナーシップをむすび、新たに17団体へと留職者を派遣 2. プロジェクトマネージャー(写真左)が留職者(写真右)に寄り添い、徹底して伴走



「CSV経営」に向き合った経験を駐在に繋げる

キリンホールディングス株式会社 / 結城 正義さま / 30代前半 / Myanmar / 4ヶ月 / 営業職

ミャンマーにて、食が健康に及ぼす問題の解決に取り組んだ結城さん。衛生的なスパイスの加工生産・販売を通じて、がんのリスク低減などを旨とする社会的企業Natural Fresh Farm Myanmar Co. (略称NFFM) に留職しました。現地ではマーケティングや営業活動に加え、団体のビジョン策定や人材育成といった組織力の強化にも取り組みました。NFFM代表・Nayさんからは「結城さんはスタッフと信頼関係を築き、全員を巻き込みながら組織改革に取り組んでくれた。その結果、メンバー一人ひとりの意識向上につながった」という声をいただいています。

留職者の声

現地の人々と「ありたい未来」を追求し続けた4ヶ月



キリンホールディングス株式会社

結城 正義さま / マンダレー・ブルワリー社出向

CSV経営*を通じてキリングループを真のグローバルカンパニーにした。そのため現場で社会課題に取り組み、自分なりにCSVを理解して実践できるようになりたい。そんな思いから留職に参加しました。現地では団体ビジョンの策定などを実施。その過程ではスタッフをはじめ多くの人と「ありたい未来」を考え、実現に向けて一緒に行動を起こしていきました。この経験から「CSVとは沢山の仲間と互いのビジョンを共有し、よりよい社会の実現に向けて行動する」ことだと実感しました。この学びを活かしつつ、留職後はミャンマーに駐在し、新規事業の立ち上げなどに取り組んでいます。

※CSV (Creating Shared Value) : 社会課題の解決を通じ、経済的価値と社会的価値の双方を創出する事業のあり方



1. 「現地の人々が持つ食への意識を変えたい」と奮闘する代表・Nayさん(写真右)と議論を重ねる結城さん 2. メンバーとは「世界中の人にミャンマーの食を楽しんでもらう」というビジョンのもと協働した



ご担当者の声

CSVの体現とリーダーシップ育成



キリンホールディングス株式会社

和田 直樹さま / 人事総務部

経営環境の変化が激しい中で企業競争力を強化するために、価値創造を実現できる人材の育成に取り組んでいます。留職プログラムは、社会課題への取り組みを通じた価値創造の実現に向け、様々な困難の中でもリーダーシップを発揮して課題解決を図るという弊社が掲げている「CSVの実践」の原体験を期待して導入しました。ミャンマーに留職した結城さんは「自ら発信して周囲を巻き込む力」が伸びただけでなく、CSVを体得し、自分の言葉で語れるようになって帰ってきました。事業で社会課題の解決に取り組んだ留職の経験を活かし、駐在員としてミャンマーで活躍することを期待しています。

社会価値創造を牽引するリーダーを育む骨太な取り組み

日本電気株式会社

NECは「社会価値創造」の実現にむけ、事業を通じて社会課題を解決するリーダーの育成に向けた施策を行っています。その一環として2013年から留職を導入いただいており、取り組みの成果はプログラム経験者の活躍に現れ始めています。

✓ 留職経験者の活躍

2013年にインドで留職した安川展之さんは、帰国後にインドの糖尿病予防に挑む新規事業に事業責任者として取り組んでいます。2020年にはビハール州政府との提携を発表し、NECの持つテクノロジーを活用した生活習慣病の改善を目指しています。

✓ 5人派遣を実現

社会価値の創造をリードできる人材の育成を加速させるため、同社は2019年度に留職プログラムへの5名一斉派遣を行いました。帰国後には合同で報告会を開催し、全社に経験を共有。派遣した人材の育成にとどまらず、周囲の社員への波及効果、さらには組織カルチャーの変革を目指しています。



1. 留職での経験を活かして新規事業を牽引するNECの安川さん(写真中央) 2. 5名(前列)はそれぞれ異なる部署からインド、フィリピン、マレーシア、カンボジアに留職した



ご担当者の声

長期的な取り組みこそがチェンジ・メーカーを育む



NECマネジメントパートナー株式会社

逢坂 浩一郎さま / 人材開発サービス事業部

「社会を変えたい」という強い想いがなければ、社会に価値をもたらす新たな事業を生み出せません。留職での経験や抱いた志を、新規事業創出として実現する者が出るなど、長期的な取り組みが成果として現れ始めました。変革期のNECにおいて、今後も彼ら・彼女らには、チェンジ・メイカーとして組織をリードする役割を担っていただきたいと思っています。

02

社会課題体感 フィールドスタディ

Social Issue Understanding Field Study

実施件数

28件

参加人数

505人

企業数

21社

※2015～2019年度の累計実績

社会に対する鋭い感性とぶれない軸を育てる 短期集中型の役職者向けプログラム

変化の激しい時代において、企業経営は経済だけでなく社会へのインパクトを考える視点と姿勢が求められています。本プログラムでは企業のリーダー層が社会課題を体感するとともに、これからのビジネスのあり方を考えていきます。参加者のマインド変化が組織のカルチャー変革につながり、社会を変える動きとなった事例も生まれています。



Step

01 社会課題の体感

社会課題の現場に身を置き、五感をフル活用して一人称で課題を「体感」する



Don't Think, Feel

U理論に基づいた
自らと深く向き合う
旅路

Step

04 行動への覚悟

学びと気づきを改めて言語化し、業務での実践に向けた最初の一歩への決意を固める



Step

02 リーダーとの対話

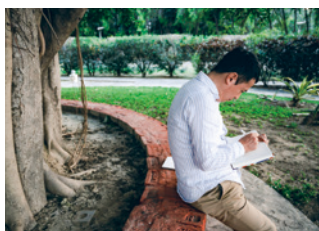
課題解決に奮闘するリーダーの志と行動力からリーダーシップや課題解決のあり方を学ぶ



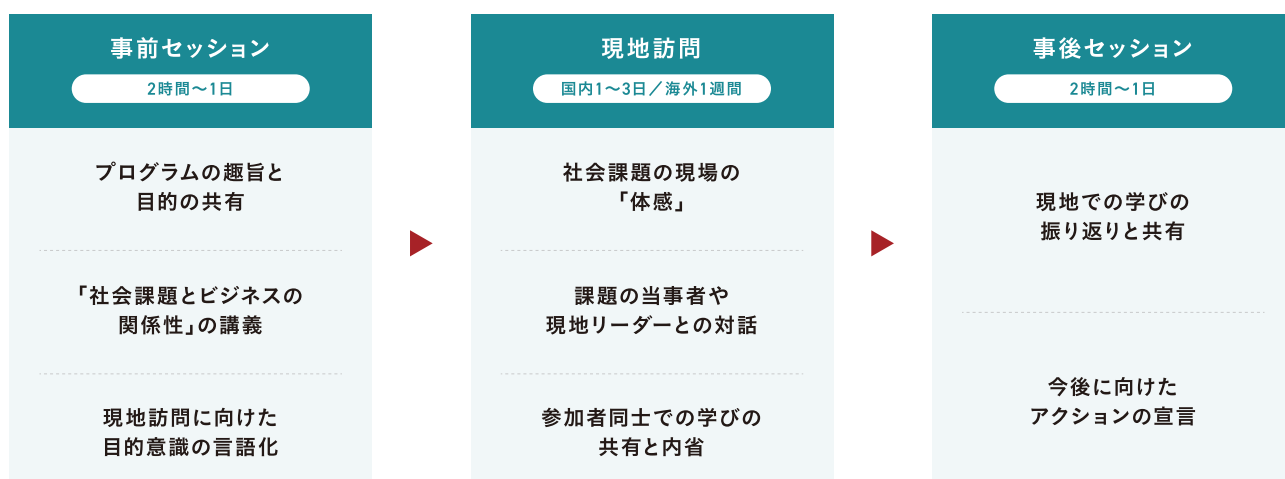
Step

03 内省

湧き上がった感情を書き起こし、それを参加者同士での共有を繰り返し、自分自身の「ありたい姿」を深めていく



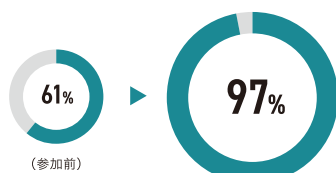
プログラムの流れ



参加後の変化と声

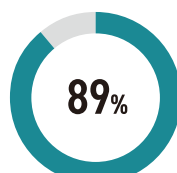
(2019年8月～2020年2月の回答、n=152)

社会課題への関心があるか



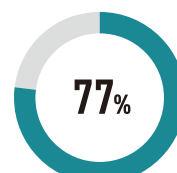
- 社会課題についてより知ろうと調べたり、関係者にヒアリングするようになった。
- 参加後は自分が属する社会で起きている問題を、他人事に感じられなくなった。

自身の業務に対する姿勢・考え方は変わったか



- 「いま取り組んでいる仕事が、どう社会のためになるのか」を考えるようになった。
- 自分の意思を論理だけではなく、熱量も持って周囲に伝えていこうと思った。

部下や同僚など周囲とのコミュニケーション方法は変わったか



- これまで部下に指導しすぎていたと反省し、今は信じて受け止めるようにしている。
- 自分も部下も意義をもって仕事をするために、業務の意味を説明するようになった。

CASE

未来起点で事業を構想する

株式会社日立製作所 / 15名

個社 × 国内 × 研究職 × 事業接続

若手の研究者を対象にしたプログラムを、林業を通じた地域の活性化に取り組む岡山県・西栗倉村にて開催しました。参加者は村役場のリーダーや社会起業家との対話や、森への訪問などを通じて内省を深め、「創りたい未来」の実現に向けた研究アイデアを考えました。「構想を最後までやり通すためには、自分がやりたいことをやるべき、という言葉に刺激を受けた」「自分が何をしたいのか、今後どういう社会貢献をしたいのか、について構想が広がった」といった声が届いています。



1. 西栗倉村における産業の中心である森を散策し、地域がめざす姿を五感で感じる参加者たち
2. 地域活性化に取り組むエーゼロ代表・牧大介さん(写真中央)より、西栗倉村がめざす未来について伺った

CASE

社会課題に向き合うパーパスを、組織の強みに

PwCコンサルティング合同会社 / のべ102名(2017年から累計)

個社 × 国内 × 経営幹部/若手層 × 組織カルチャー変革

「社会における信頼を構築し、重要な課題を解決する」ことをパーパス(企業の存在意義)として設定している同社は、その意味を社員の一人ひとりが考え、業務で表現していくために2018年度より社会課題体感フィールドスタディを導入しています。これまで南相馬や女川町などを舞台にプロジェクトを実施、参加者は100名を超えました。

この取り組みは、参加した社員の社会課題に対する意識の変容にとどまらず、具体的な社会課題解決の加速へとつながっています。フィールドスタディをきっかけに、宮城県女川町でNPO・行政との共同事業が開始されるなど、地域の課題を解決するさまざまなプロジェクトが生み出されています。また、プログラムに参加した経営幹部たちが中心となって2020年5月には一般財団法人PwC財団が設立され、同社はコンサルティング業界のリーダーとして社会課題の解決へのコミットメントを強めています。



1. 同社CEO(当時)の足立晋さん(写真中央)を囲む参加者たち。現地では立場を超えた多くの会話が交わされた 2. 一同が社会課題を体感し対話を深めた2日間は、その後も活発な議論を生み出すきっかけに



ご担当者の声 自分・仕事・社会をつなげる原体験



PwCコンサルティング合同会社

沖 依子さま / 人事部 ラーニング&デベロップメント リーダー

「課題」や「希望」の現場で生きるリーダーの姿は、経営陣から入社1年目の若手まで世代を超えた参加者たちに、「自分」と「仕事」と「社会」の関係を問い直す「原体験」となるほどのインパクトを及ぼしてきました。五感を研ぎ澄ませ、懸命に言語化し、踏み出していくこの探究の旅は、今の時代にこそ必要な学びの機会です。

CASE

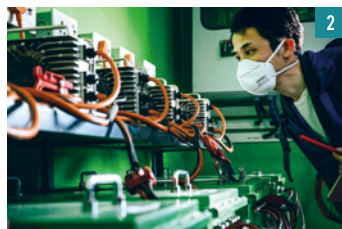
インドの辺境から、未来のビジネスのあり方を考える

NTTドコモ、本田技研工業、国際協力機構(JICA) ほかに 12社15名

複数社集合型 × 海外 × 経営幹部/次世代経営者層

Social
Innovation
Mission
2020 in INDIA

大企業の役職者およびスタートアップの経営者など総勢16名が、デザイン思考の第一人者であるBIOTOPE代表の佐宗邦威さんとともに、インドのデリー・バラナシを訪問。1週間の滞在で、テクノロジーを活用して農村部の流通課題に挑む現場や、リキシャーの電動化で環境課題に取り組むリーダーのもとを訪れました。帰国後には参加者一人ひとりが「創りたい未来に向けたプロジェクト」を考案し、現地での学びを形にしました。「尊厳をつくるのがビジネスの役割だ、という現地起業家の哲学に感銘を受けた」という声のように、参加者の多くがビジネスの根本に立ち返って事業のあり方を捉え直しました。



1. プログラム期間中には農村部での宿泊も体験。村の人々と生活空間を共にし、現地での生活を体感していった 2. 社会的企業がテクノロジーを活用してイノベーションを起こす現場を目の当たりにする参加者

プログラム・アドバイザーの声

これからの社会を先見したプログラム



BIOTOPE

佐宗 邦威さま / 代表

SDGsやESG投資といった長期的な価値創造の機運が高まっていくなか、企業には経済的な利益だけでなく、環境や社会といったソーシャルセクターとのバランスを取ることが求められています。ビジネスの世界にあった経済的な価値を最大化するという方法論と、ソーシャルの世界にあった色々なリソースをつなぎ合わせるという方法論の融合が、いま必要とされています。今回のプログラムでは、インドで起きている「ビジネスとソーシャルの融合」の兆しを見ることができましたが、ソーシャルセクターとビジネスセクターのネットワークをつなぎ合わせることは、未来のビジネスの源泉になると思います。日本のビジネスセクターが変化していくためには、企業が自らのパーパスに合わせて、ソーシャルセクターと協働していく必要があります。クロスフィールズには、こうしたビジネスとソーシャルの「アライアンス」を仕掛けていく役割を期待したいです。

03 社会課題解決 ワークショップ

Social Business Creating Workshop

実施件数

39件

参加人数

611人

企業数

13社

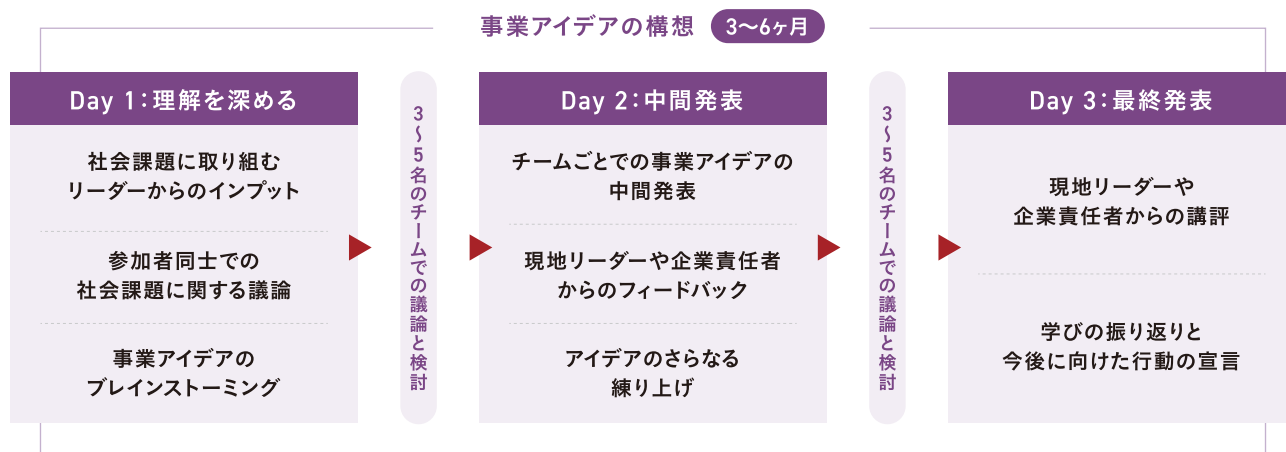
※2011～2019年度の累計実績

社会課題に精通する国内外のリーダーと 事業アイデア創出に取り組むプログラム

「社会の課題を解決する」ための事業アイデアをチームで創出するワークショップ。参加者は社会課題への理解を深めるだけでなく、社会起点でビジネスを考える視点も醸成していきます。ワークショップにて生まれたアイデアが、実際にプロジェクト化される動きも多数生まれています。



プログラムの流れと効果



CASE

仕事と会社の風土を見つめ直し、社内の取り組みを活性化

ヤマハ発動機株式会社 / 10名 (個社) × (海外テーマ) × (人材育成、事業検討)

研究者のマインド変容と新規事業創出を目的とし、Leapfrog Ventures Inc.代表の寺久保拓摩さんをゲストに迎え、タンザニアの社会課題を解決する事業アイデアを3ヶ月かけて検討しました。アイデアを事業化することが社会課題への取り組みを活性化させると認識した参加者たちは、次なるアクションを起こし始めています。



普段はなじみのない「タンザニアの社会課題」をテーマに議論を交わす参加者たち

CASE

長野県・小布施町を舞台に、自分と組織の枠を超える

アステラス製薬、NEC、本田技研工業 / 15名 (複数社) × (国内テーマ) × (新規事業創出)

3社から集まった15名の参加者が、社会課題をテーマにした事業創出に挑みました。各社の部長がメンター役を務めながら、長野県小布施町を舞台に事業アイデアを3ヶ月半で練り上げていきます。「参加者に強い『内発的動機』が生まれたことが価値」というメンターのコメント通り、数々のマインド変容が生まれました。



参加者はまちづくりに携わる市村町長や役場の方々から農業や福祉などのお話を伺い、課題の理解を深めた

04 ソーシャルセクター支援

Social Sector Empowerment

社会課題の解決に挑むリーダーたちに伴走し、事業推進をサポート

クロスフィールズはすべての事業において、国内外のNPOや社会的企業とともにインパクトの創出に取り組んでいます。こうしたパートナー団体の声を聞きながら、さまざまな橋渡しを行い、国内外の課題解決に向けて協働してきました。いま、その確かな成果が至るところで現れ始めています。



歴代留職者たちの活躍が、現地団体の挑戦を後押し

Fargreen(ベトナム): 有機農業支援を行う社会的企業

Fargreen(ファークグリーン)では、留職者を継続して受け入れていることが団体の拡大に結びついています。これまでに6名の留職者を受け入れてきた同団体では、歴代の留職者による働きかけが実を結び、ホテルとの共同イベントなどが実現しています。代表のTrangさんからは「創業期から今日までたくさんの挑戦と困難を経験したが、思い返すといつも留職者とクロスフィールズがいた。目標にしている『有機農産物の流通拡大と農家の支援』達成に向けてこれからも共に歩みたい」というメッセージが届いています。



代表・Trangさん(写真左)とは長年のパートナーシップのもと、強い信頼関係を構築

セクターを超え、新しいつながりを生み出す

一般社団法人 あすびと福島(日本): 福島の復興・創生を担う次世代育成に取り組む団体

過去14回のフィールドスタディで15社239人が福島県南相馬市にて学びを得てきました。プログラムを通じて参加企業とあすびと福島がつながり、終了後もあすびと福島へのプロボノや在籍出向といった形で信頼関係が発展するケースが増えています。代表の半谷栄寿さんからは「社員研修のお役に立つよう全力を尽くしています。信頼がつながり、企業の方々が福島の次世代育成に関与するとともにご自分もさらに成長する好循環が生まれています」という感謝のお気持ちをいただいています。



フィールドスタディ参加者と交流を深めるあすびと福島代表・半谷栄寿さん(写真左)

国境を超えた学び合いを促進

株式会社 坂ノ途中(日本) / Good Food Community(フィリピン): 有機農業の推進に取り組む社会的企業

クロスフィールズはこれまでに、同じテーマで活動するNPOや社会的企業が国境を超えて学び合うプログラムを運営してきました。今年度は実験的に、異なる国のソーシャルセクター間における人材交流を実施。フィリピンのGood Food Communityより、幹部社員Ernestさんを日本の坂ノ途中に派遣しました。初めての組織で2週間の実務を経験したErnestさんは「社会的企業におけるスタッフ育成やリーダーシップのあり方などたくさんの学びがあった。この経験をフィリピンで活かしていきたい」と語っています。



坂ノ途中メンバーとErnestさん(写真・右から2番目)。この人材交流事業は2020年度以降の本格実施を計画中

05 新規事業

New Initiative

新型コロナウイルスの感染拡大に対応した 新規事業の推進

新型コロナウイルスの感染拡大による社会の分断が危惧されるなか、いまクロスフィールズにできることは何かを、企業および国内外のNPO/NGOと対話を重ねながら考え、実践しています。2020年6月末時点では、以下のような新規事業が動き出しています。

01 国内留職(グローバル型/CSV型)

日本国内で活動するNPOや社会的企業で
課題解決に挑むプログラム(半年程度～)

日本に事務所を置きながら、グローバルな業務環境で社会課題の解決に取り組む団体を派遣先とする「グローバル型」と、留職者の所属企業が生み出そうとしている社会的価値と共通のテーマに取り組む団体に派遣する「CSV型」、2つの形式があります。



02 バーチャル留職

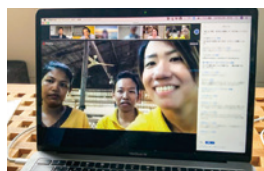
新興国のNGO等が抱える課題の解決に日本から
オンラインで挑むプログラム(2-3ヶ月程度)

新興国のNGOや社会的企業が持つ課題に日本からオンラインで取り組みます。参加者は3-4名でグループを形成し、業務時間の20%程度をこの課題解決に充てます。バーチャル環境で他者を巻き込み、背景の異なる顧客に価値を提供する高度なリーダーシップが養われます。

03 オンライン対話型 社会課題体感フィールドスタディ

社会課題に取り組む国内外の組織とオンラインで
つながり、対話型で内省を深めるプログラム(2日間程度)

ライブ映像やインタビュー動画等を駆使して社会課題の現場を深く理解するとともに、課題の当事者や現地のリーダーとの対話を行っていきます。対話で受けた刺激を他の参加者と振り返りながら、ご自身や組織のあり方、さらには自らの軸や志を見つめ直します。



04 社会課題体感VRワークショップ

VRを活用して新興国の暮らしや社会課題を
疑似体験するワークショップ型のプログラム(3時間程度～)

カンボジア農村部の暮らしや日本の貧困家庭における学習環境など、通常は理解を深めることが難しい国内外の社会課題の現場をVR映像により疑似体験していきます。課題の当事者が置かれた状況をミクロレベルで理解すると同時に、当事者への共感や課題を解決しようとする探求心を刺激します。社会課題をテーマとした新規事業創出や役職者へのSDGs理解浸透など様々な目的に応じたワークショップの設計が可能です。



05 ソーシャルセクター 緊急雇用マッチング

コロナ禍で活動が急拡大して人材ニーズが高まるNPOに
対し、緊急的に人材をマッチングするプログラム

稼働が低下しているNPOの職員や帰国中の青年海外協力隊を、コロナ禍で人材ニーズが高まっている国内の団体にマッチングする取り組みです。2020年6月に開催したマッチングイベントには総勢150名が参加し、10件以上の雇用創出につながりました。短期的には緊急雇用ニーズの充足を目標とし、中長期的にはソーシャルセクター内外の人材流動化を促進することで、さまざまな協働や創造的なアイデアが生まれる仕組みをつくることを目指していきます。



新規事業に関する最新情報は、
こちらのWebサイトをご覧ください。

クロスフィールズ 新型コロナウイルス

検索

http://crossfields.jp/update/cov19_service/



新聞・雑誌・書籍:5回

日経新聞、日経産業新聞 等

ウェブ:18回

「DIAMONDハーバード・ビジネス・レビュー」ウェブサイト、
BUSINESS INSIDER JAPAN 等代表・小沼の著書「働く意義の見つけ方」が韓国語に
翻訳されました(写真左)現地では出版イベントも開
催(写真上)“Cross Fields Empowerment Gathering
(CEG)2019”を開催

2019年7月、これまでクロスフィールズの様々なプログラムに参画いただいた企業・NPO・社会起業家・サポーターの方々、総勢120名を一同に集めたイベント・CEG 2019を開催しました。“Collective Impact※”をテーマにゲスト講演やワークショップなどが行われ、エネルギーに満ち溢れた2日間となりました。今回のイベントを通じて「社会課題の現場での原体験」を共有する仲間が繋がり、励まし合うことが、社会を変える力になっていくと確信しました。これからもクロスフィールズは、「社会を変えたい」という想いを持つ人々が結びつき、ともに社会課題に取り組む機会を生み出していきます。

※Collective Impact: 異なるセクターから集まった人々がグループとなり、同一のビジョンと目標を共有して社会課題の解決に取り組む仕組み

TALK SESSIONS & EVENTS

講演・イベント

講演:17回

自治体とNGO/NPOの連携推進セミナー、
人材育成学会「人材育成と現場活動のオープン化」等

イベント:13回

「越境4.0時代のリーダー育成 ～意義ある越境活動の選び方・使い方～」
Cross Fields Empowerment Gathering (CEG)2019等越境活動を通じたリーダー育成を考えるイベントを
主催。各界からの登壇者と参加者による幅広い議
論が展開された。世界的なボランティア団体・IAVE がバンコクで開催
した国際会議に代表・小沼が登壇し、基調講演を
行った。

FINANCIAL STATEMENT FY2019

2019年度収支報告 (2019.6-2020.5)

(単位:円)

科目	2019年度実績
事業収入	203,748,950
受取会費	849,500
受取助成金等	4,010,000
その他収入	1,154,880
当期収入合計	209,763,330
事業費	170,841,144
管理費	5,473,362
法人税等	12,008,800
当期支出合計	188,323,306
収支	当期純損益
	21,440,024
前期繰越正味財産	92,497,137
次期繰越正味財産	113,937,161

注1) 事業費は、主に人件費、支払報酬料、旅費交通費、地代家賃など
注2) 管理費は、主に地代家賃、支払報酬料、減価償却費など

監事署名

小沼 弘毅

特定非営利活動法人クロスフィールズ

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-8-3 町原ビル4F

TEL:03-6417-4804 E-MAIL: info@crossfields.jp

クロスフィールズ

検索

http://crossfields.jp

f CROSS FIELDS



枠を超える、未来を創る

CROSS FIELDS